

安岡正篤 安岡正篤 政治哲學者。明治二十一年一月十二日大阪生れ、昭和五十八年十一月十二日歿（八九一〇三）。舊姓堀田。號瓢堂、瓢堂散人、正篤學人。第一高等學校を経て、大正十一年東京帝國大學法學部政治學科卒。翌年東洋思想研究所を興じ、十五年金雞學院を創設。昭和六年日本農工學校を、また篤農協會、國維會を組織。終戦入詔の原案删修に當つたことは周知。二十四年師友會を創設。

著書 『國民精神への反省』（合著）（合著・思想問題研究会編、昭和六年二月十日社會教育會）、『文中子抄』（小曾根均筆記、昭和六年四月二十日金雞學院「聖賢讀書新釋叢刊」）、『國體の真意義』、『日本の國體』（紀正止美合著・思想問題研究会編、昭和七年十月十日青年教育普及會）、『東洋政治哲學—王道の研究』（昭和七年十一月十日玄黃社）、『小學』

（抄編、昭和十年一月十日金雞學院）、『河井蒼龍屋の學源』（玄會獨尊社叢書）（昭和十一年七月二十九日新瀉・日本玄會社）、『春の瀟湘の教學』（昭和十二年十二月二十六日教壇局「教學叢書」）、『世界の旅』（昭和十七年十一月二十日第一書房）、『學問論』（合著、

昭和十九年六月五日文部省教壇局「教學叢書」）、『老莊思想』（昭和二十一年十一月十日福村書店）、『政治家と實踐哲學』（昭和二十三年十一月十日福村書店）、『日本の父母心』（昭和二十七年八月十日福村書店）、『新編百朝集』（昭和二十七年十一月十五日福村書店）、『危機辯詰—新編経世瑣言』（昭和二十八年五月十五日福村書店）



法）、『祖國と青年—祖國の精神的傳統と語り』

（昭和二十二年四月二十日明德出版社「師友選書」）、

『名詩選釋』（吉村 古城筆録、昭和二十二年十一月藤長四郎抄編）

月、二十日明德出版社）、『討論語一孔子家語十講』（昭和二十一年一月）、二十日明德出版社）、詩歌集『浮生有情集』（昭和二十四年十一月）、二十日浮生有情集刊行会、全国師友協会）、『明治の評価と明治人の感觸』（合著・動向社編集部編、昭和四十一年五月十五日動向社）、『偉大なる對話』水雲（問答）人物・專業・経営（い）（い）（昭和四十四年十月十五日大阪・懇曲師友協会）、『運命を創る一人間學講話』（昭和六十一年十一月十日プレジデント社）、『東洋的學風』（平成二年八月十日島津書房）等。

文獻、林繁之著『安岡止篤先生隨行録』（昭和二十一年六月）二十四日竹井出版株式会社）、神渡良平著『安岡止篤人間學』（平成四年十一月）二十五日同信社）等。

